

理念

先人が築き上げた湖北の『農』を、次の世代・産業へと繋ぐ

目標

健康的なライフスタイルを支え、リードする地域・産業づくり拠点

- 京阪神や東海、北陸の結節点である交通の利便性を活用し、小谷城スマートIC周辺に地域の基幹産業である「農業」を主体とした、アグリビジネス拠点を整備します。
- 多くの企業を呼び込み、農産物の生産から加工、販売、更には観光という「サプライチェーン」を確立し、進出企業間のコラボや来訪者との交流が生まれる、長浜市独自の全く新しいアグリビジネスの産業集積地を創ります。
- 小谷城スマートIC周辺で、有能なアグリビジネス人材を育て、長浜市産の農産物の供給量を増やします。

②地域の現状・課題

(10年前との比較)
販売農家戸数 40%減
農業生産額 10%減
耕作放棄地 7%増
米麦大豆の生産額・面積比率 90%以上

【課題】

- ・農業の高付加価値化
- ・新しい農業の担い手育成
- ・バイオ・IoT技術活用による農業進化

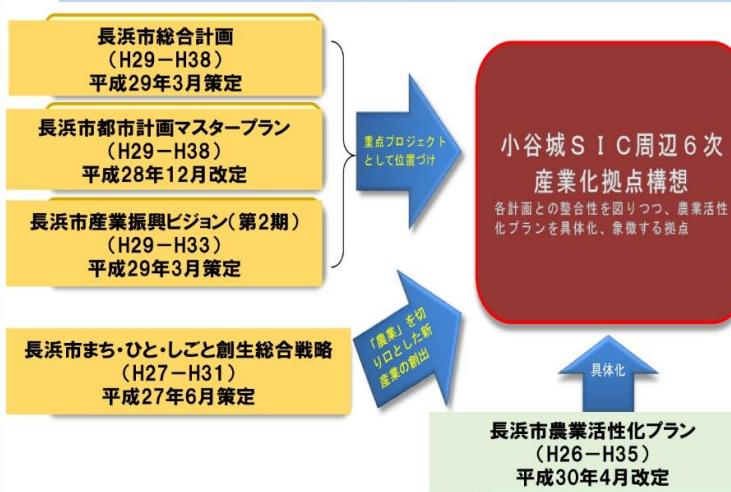
米・麦・大豆を中心とした農業

新しい作物
農法への挑戦
(水田野菜・伝承野菜ブランディング・機能性野菜・水田耕利用率の増加)

6次産業化による成長産業へ転換

- ☆新たな雇用創出
- ☆地域経済の活性化
- ☆農業生産物の拡大
- ☆農業の持続的発展

③本構想の位置づけ



◎長浜市の上位計画に基づく重点プロジェクト



■地域産業誘導地区の設定

小谷城スマートIC周辺約51.5haは、都市計画区域の再編により、周辺との調和に配慮しながら、地域の雇用を支える地域産業拠点に設定。

■建築物の用途制限の緩和

店舗、事務所、工場・倉庫等の床面積を撤廃。

※田園居住地区1,500m以下

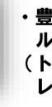
④事業イメージ



・黒壁スクエア
年間200万人観光客



- ・歴史の宝庫
(小谷城跡・中島城跡・虎御前砦跡等)の積極的活用
- ・鶴足寺の紅葉客10万人
- ・観音文化の発信

『オール長浜』で取り組む
6次産業化

- ・豊かな自然環境を活用したアウトドアフィールドの整備
(トレッキング・サイクリング・森林浴・アスレチック・ジップライン等)



- ◎生産ゾーン
『新たな農業への挑戦』
新たな農作物の開発/生産拠点化、バイオ技術の活用/伝承野菜のブランディング、体験型農園の設置など



- ◎交流・商業ゾーン
『食・観光・賑わい』
人が集まり、地域の賑わいを生みだし、ビジネスにつなげる機能



- ◎人材育成ゾーン
『湖北の農を未来につなぐ』
収益力の高い次世代アグリビジネス人材の育成機能



⑤小谷城スマートIC/位置関係

滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接しています。ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖が広がっており、中央には、琵琶湖に注ぐ姫川や高時川、余呉川などにより形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖北風景が広かり、県内でも優れた自然景観を有しています。

また、古くから近畿と東海・北陸の経済圏域の結節点として、京都市や名古屋市からはおよそ100km圏内、大阪市からはおよそ150km圏内にあります。

北陸新幹線(敦賀)、東海道新幹線(米原)、JR北陸本線・琵琶湖線・湖西線や北陸自動車道を主な広域交通軸として、これらの地域と利便性高く結びついています。



名古屋方面

- 北陸自動車道、名神高速、東名高速、ほか
名古屋まで 約65分
名古屋港まで 約80分
中部国際空港まで約100分

大阪方面

- 北陸自動車道、名神高速、ほか
京都まで 約90分
大阪まで 約115分
大阪港まで 約120分
関西国際空港まで 約150分

金沢方面

- 北陸自動車道
福井まで 約80分
金沢まで 約125分
敦賀港まで 約30分

~長浜市~

▶ 面積: 680.79km²
(東西約25km、南北40km)
※ 陸地は539.48km²

▶ 可住地面積
: 164.40km²
※総面積のうち約30.5%

▶ 人口: 118,699人
世帯数: 45,581世帯

※平成30年8月1日現在



⑥本市の推進方針

■企業誘致による事業創出

・企業への積極的な働きかけ及び企業間マッチング等を進めることで、民間主導による6次産業化の拠点整備の早期実現を目指します。

■企業進出の環境整備

- 滋賀県内初となる「6次産業化施設等立地助成金」の創設
- 地元調整(交渉窓口設置・地権者交渉等)
- インフラ整備(上下水道の整備・水源確保等)